

## 再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：北海道開発局都市住宅課  
担当課長名：小田島 聖

<b>事業名</b> 都市計画道路3.3.1当別大通 <small>とうべつおどおり</small>	<b>事業区分</b> 街路	<b>事業主体</b> 北海道													
<b>起終点</b> 自：北海道石狩郡当別町園生 至：北海道石狩郡当別町栄町	<b>延長</b> 0.8 km														
<b>事業概要</b> 当別大通は車道幅員が狭小で道路形状も複雑なため、快適な車両走行の障害となっている。また、歩道幅員も狭小のため、通勤・通学路としての安全確保等が求められている。路線の広幅員化・直線化により、都市内交通の円滑化と安全安心な歩行空間の確保を図るものである。															
H11年度事業化	S51年度都市計画決定 (H19年度変更)	H12年度用地着手													
H14年度工事着手															
<b>全体事業費</b> 約4.2億円   <b>事業進捗率</b> 77%   <b>供用済延長</b> 0.5 km															
<b>計画交通量</b> 10,700台/日															
<b>費用対効果分析結果</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;"> <b>B/C</b>                      (事業全体)                 </td> <td style="width: 20%; text-align: center;">                     1.4                 </td> <td style="width: 20%; text-align: center;"> <b>総費用</b>                      (残事業)/(事業全体)                 </td> <td style="width: 20%; text-align: center;">                     8.2 / 41 億円                 </td> <td style="width: 20%; text-align: center;"> <b>総便益</b>                      (残事業)/(事業全体)                 </td> <td style="width: 20%; text-align: center;">                     35 / 56 億円                 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">                     (残事業)                 </td> <td style="text-align: center;">                     4.3                 </td> <td style="text-align: center;">                     事業費：7.9 / 40億円                      維持管理費：0.26 / 0.75億円                 </td> <td style="text-align: center;">                     走行時間短縮便益：26 / 45億円                      走行経費減少便益：7.4 / 9.2億円                      交通事故減少便益：1.4 / 1.8億円                 </td> <td style="text-align: center;"> <b>基準年</b>                      平成20年                 </td> <td></td> </tr> </table>	<b>B/C</b> (事業全体)	1.4	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体)	8.2 / 41 億円	<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体)	35 / 56 億円	(残事業)	4.3	事業費：7.9 / 40億円 維持管理費：0.26 / 0.75億円	走行時間短縮便益：26 / 45億円 走行経費減少便益：7.4 / 9.2億円 交通事故減少便益：1.4 / 1.8億円	<b>基準年</b> 平成20年			
<b>B/C</b> (事業全体)	1.4	<b>総費用</b> (残事業)/(事業全体)	8.2 / 41 億円	<b>総便益</b> (残事業)/(事業全体)	35 / 56 億円										
(残事業)	4.3	事業費：7.9 / 40億円 維持管理費：0.26 / 0.75億円	走行時間短縮便益：26 / 45億円 走行経費減少便益：7.4 / 9.2億円 交通事故減少便益：1.4 / 1.8億円	<b>基準年</b> 平成20年											
<b>感度分析の結果</b> 事業全体について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.5（交通量+10%） B/C=1.2（交通量-10%） 事業費変動：B/C=1.3（事業費+10%） B/C=1.5（事業費-10%）															
<b>事業の効果等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全な生活環境の確保（歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される）</li> <li>・都市の再生（区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり）</li> <li>・国土・地域ネットワークの構築（現道における大型車のすれ違い困難区間を解消する）</li> <li>・災害への備え（緊急輸送道路ネットワーク計画に位置づけのある路線）</li> </ul> 他9項目に該当															
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 事業着手以降、「北海道石狩地方開発促進期成会」を通じて整備促進の要望が行われている。															
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 平成19年度に1工区を供用済み。															
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 1工区は供用を開始し、その後の事業区間についても順調に推移しており概ね予定通り実施している。															
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 1工区の供用が開始し、2工区も順次用地交渉を進めており、全体区間の早期供用を望む声も多く聞かれ、計画年次での完成が十分見込まれる。															
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 残土を他事業に流用したり、再生骨材や再生アスファルト合材を使用し、資源循環の促進によりコスト縮減を図っている。また、軟弱地盤対策における新技術の活用（着脱式軽量壁面材一体型EPSブロック）によりコスト縮減を図っている。															
<b>対応方針</b> 事業継続															
<b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。															
<b>事業概要図</b> 別紙															

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

凡 例	
供用中	
事業中	
再評価箇所	
うち供用済み	

